

第4回 西脇市子ども・子育て会議 議事録

日 時	平成26年6月3日（火） 15時30分～
場 所	西脇市役所 特別会議室
参加者	<p>竹内会長 小崎委員 武部委員 小澤委員 杉本委員 伊達委員 神戸委員 森本委員 田畑委員 衣川委員 頃安委員 足立委員 富永委員 勝岡委員 丸山委員 安田委員</p> <p>欠席委員：藤田委員</p> <p>事務局： 田中福祉生活部長、清水児童福祉課長 小西教育部長、東学校教育課長、松本教育研究室長</p> <p>運営支援：ジャパン総研 小林 菅原</p>
議 事	<p>(1) 目標事業量の確認</p> <p>(2) 子ども・子育て支援事業計画骨子案について</p> <p>(3) その他</p>
資 料	<ul style="list-style-type: none"> ・ 会議次第 ・ 資料1 子ども・子育て支援事業計画における量の見込み（ニーズ量） ・ 資料2 子ども・子育て支援事業計画骨子案 ・ 資料3 「西脇市子ども・子育て支援事業計画」の基本理念について ・ 子ども・子育て支援新制度関係スケジュールの現状と予定（国の検討状況等より）
傍聴人数	5人

1. 開会

2. 委員紹介

3. 議事

(1) 目標事業量の確認	
事務局	●資料1をもとに説明
会長	何かご質問は。何でも結構。では、私の方から。資料2枚目、一時預かりの1号認定などの単位の見方はどうなのか。
事務局	年間での延べ人数。
会長	なぜ「日」が入るのか。
事務局	実数ではなく延べ人数なので「日」で示している。
会長	手引きと実績の違いの原因は何か。
事務局	桁が違う場合もあり、検討したが、手引きから出てくる数値は、潜在的な保護者のニーズが強く出過ぎてしまうようである。
会長	これは国の手引きか。
事務局	はい。国から算出方法が手引きとして出されている。ただ、他の自治体でも実態とかけ離れた数字が出てきてしまうということがあり、その場合は、会議の場で各市町村にあった数字にできるよう調整していくということになっている。そのため、今回、手引きの数字と、実績値から人口の伸び率に合わせて推計した数字の2種類を出している。
会長	ということは、国が間違っているのか。西脇市に限らず、他の市町村でもこういった数字が出るのか。
事務局	県の説明会で、もともとの算出が高めの傾向が出ているという情報があり、各自治体で実績に基づいて補正をかけるということを言われている。
委員	特に乖離している部分は1ページの延長保育、2ページの幼稚園の一時預かり、その他の一時預かり、病児・病後児保育事業。親にしてみたら何かあった時にあった方が安心な制度で、希望をとればやってほしいと思うので、数は増えていくと思う。ただ、25年実績から27年見込みは数値が減っているものがある。それは適切なのか。前年度実績くらいを押さえておくことが合理的だと思うが。
事務局	ショートステイ事業については、必要としている方の実人数だと思うので、前年度実績は押さえる方がよいと思う。
会長	それでは、前年度実績くらいは押さえておいてもらうということよろしいか。
委員	ショートステイの認知度は低いものであり、その状態の実績を

	活用してニーズ量を出すのはどうかと思う。認知度が低いためにニーズが低いものは、周知できたときのことを想定してニーズを高くした方が良い。
委員	先日もニュースで大きく取り上げられたベビーシッターの事件は、こうしたサービスを知らないがための結果。認知度を高めていく必要がある。こういう制度をきちんと伝えていくことが全体的な不安感を減らし、最終的には、西脇市は安心して子育てできる町だということにつながると思う。
会長	基本的に25年度の実績くらいからスタートすべきである。ニーズが高いということも含め考慮し、多めの数字を入れておいた方が良い。都市部の方がショートステイの利用は多いのか。
委員	保護者の出産時などに預けられることも多いようだ。
事務局	事業の周知の方法を検討していきたい。ニーズ量の数値も周知が進んだ後の数字に増やしていきたい。
委員	病児保育の概要のところ「医療機関」とあるが、西脇市では保育園でしか実施していないはず。「医療機関」と表記していいのか。
事務局	現在のところ、市内で1保育所へ委託しているところである。今後、近隣市で開設された医療機関での病児保育も検討していく必要があると思っている。概要は実態にあっていないため実態を考慮した表記に修正する。
会長	病児・病後児なども実績よりも低くなっているので、実績くらいからスタートできるよう調整してほしい。
(2) 子ども・子育て支援事業計画骨子案について	
事務局	●資料2をもとに説明
会長	何かご質問は。
委員	資料1にも関連するが、資料2の量の見込みと確保の方策で、見込み量は人口比率で示されていたということだと思う。確保の方策を考える場合、現在、いろいろな事業があるが人材や場所等ニーズ量に対して不足している事業はあるのか。
事務局	今の現状ではおおむね足りている。ショートステイなどは距離的な問題など利用が少ないところもある。全体的には充足はしていると考えている。
委員	文言の話をするが、P.13(1)下の方の「標準時間」とは「教育」と「保育」の標準時間のどちらか。
事務局	双方のことを示している。「標準時間」は専門用語となっている

	<p>ので、注釈などを含めた対応をしていきたい。</p>
委員	<p>教育標準時間と保育標準時間では、現状と今後の方向性は異なるので分けるべき。また、P.17 放課後児童健全育成事業について、資料1では8カ所で実施されているので、区域は8カ所ではないか。</p>
事務局	<p>区域設定については、地域の実情に応じて、「教育・保育」及び「地域子ども・子育て支援事業」が適切に提供されるよう「量の見込み」と「確保方策」を設定する単位として、「教育・保育提供区域」を設定しなければならないことになっている。</p> <p>西脇市の区域設定としては、施設に伴うものは2区域、延長保育等のソフト事業は市全体で行うものとして全市（1区域）で設定している。そのため、学童保育については、実際は小学校や幼稚園等8カ所で行っているが、区域設定としては、施設に伴うものなので、2区域として設定させていただいている。</p>
委員	<p>お金の流れということか。</p>
事務局	<p>施設の配置で人が流れると思うので。今後、公の直営の見直しなどもありえるかもしれないので、西地区、東地区で分けて考えることにしている。</p>
委員	<p>18時半まで預かり保育を実施している。毎朝7時過ぎから徒歩登園し、最長18時半まで過ごす子どもは週末ともなれば大変疲れてくる。子どもの生の声や現実の姿を見ていただきたい。保護者にとっては、いろいろな事情があると思うので、預かる時間が長くなることは都合が良いが、子どもはその分我慢している。いろいろな施策があると思うが、子どもにとって最大の利益と幸せになるように、子どもに第一に考える施策をしていくことが重要である。</p>
委員	<p>P.13に「教育・保育の一体的な提供」とあるが、幼保一元なども入っていると思うが具体的な作業までこの会で踏み込むのか。公園の設置までこの場で考えるのか。この会で質問することができるのか？教えていただきたい。</p> <p>保護者で困っているのは相談相手がない、保護者同士のつながりが少ないこと。最近は、つながるといっても携帯電話でつながっている人ばかり。そういうものは結局、悪口を言うためのツールになっている傾向がある。相談相手がない人のための相談相手の確保が必要であり、そのような体制づくりなどを課題に感じている。</p>

委員	<p>P. 13 (3) の下から 3 行目に、「共働き家庭では、同居している親戚がいないと子育てが難しい現状があり」とあるが、これからのことを考えると、断定的な表現は避けた方が良い。</p>
事務局	<p>子どもが長時間の保育で疲れているという件は、ワークライフバランスといった観点で、女性の働き方を考えると共に男性の家事・育児への参加を呼びかけていきたい。西脇市の方でも来年度に向けた複合施設の設置を進めているが、男性への家事・育児への啓発を多くの市民に呼び掛けていきたい。</p> <p>先程の「教育・保育の一体的な提供」の件で、幼保一元化のことがあったが、今回、計画と合わせて、部会として教育・保育の提供等を検討し、会議に答申していただく形を取って、幼保一元化の方向性を決めていきたい。</p> <p>相談相手の件について、子育て学習センターでもサテライトをつくり、活動を進めている。新たにできる複合施設もネットワークづくりに活用できればと思う。</p> <p>文言の件は、様々な家族形態があるので検討し、参考にさせていただく。</p>
委員	<p>ファミリー・サポート・センター事業では実績が無いため、見込みも無いという結果になって骨子案にも記載がない。しかし、この事業が軌道にのれば、長時間の保育などの場合、家まで連れて帰ったり、病児・病後児であっても、元気だが外に出られない状態の時に家に様子を見に来てくれると、親は仕事に行ける。そういった利用は増えると思うので、今後の必要性を踏まえて計画の中で検討願いたい。</p>
事務局	<p>西脇市ではファミリー・サポート・センター事業を実施していない。市も啓発ができていないし、援助を受ける方も行う方も少ないと思う。ただ、子育て支援サービスとしてシルバー人材センターに委託して同じような事業を行っているという実態はある。今後、この子ども・子育て支援法が施行されるに当たり、ファミリー・サポート・センター事業も検討する必要があると考えている。</p>
会長	<p>ぜひお願いしたい。他に何かあるか。P. 13 の現状と課題のまとめと今後の方向性の項目内容で何かご意見はないか。</p>
事務局	<p>今回は事務局案として示させていただいているが、みなさまの立場から課題などをいただけると幸いである。あわせて、P. 15 の基本理念についてもご意見をいただきたい。</p>

会長	資料3があるので、それに記入して後日書類で提出していただいても構わない。その他、この場で言っておきたいことをお願いしたい。
委員	前回の教育・保育部会の現状についてご説明願いたい。
事務局	今回の会議で部会の報告をするということになっていたが、まだ実施ができていない。部会では、国の政令に基づく市の基準の作成や、就学前の教育をどのように提供していくかなど、より専門性を求められるものになることになるため、部会の委員には、本会議の外部からの選任を考えている。そうすると、子ども・子育て会議条例の改正が必要になるため、6月の市議会で条例改正案を上程し、可決をいただかないと部会が設置できない状況になった。条例議決後、部会を開催し、短期間で議論を進めていくことになってしまうが、そのような状況をご理解いただきご協力をお願いしたい。
委員	<p>子育てにとって大切なこととしては、やはり「相談できる場所」を確保すること。学習センターや保育園・幼稚園・小学校とそれぞれ先生がいらっしゃる。そういった「相談できる場所」があるということが大切だと思う。</p> <p>子どもの利益を考えると、サービスを充実させ子育てがしやすい環境を提供することは大事だが、親を甘えさせてはいけないと思う。しかし、親への非常識を指摘するのではなく、どのような考えでその親が行動をとったのか、その親の育った背景などもふまえて声かけをすべきであり、声かけができる環境があればよいと思う。子どものことを思えば、親も常識を身につけ、子どもの見本にならないといけない。</p>
委員	国や市の方向は、幼保一元化の流れがでてきているが、幼稚園は残して欲しいという思いがある。幼稚園と保育園が一緒になると保護者同士や地域等のつながりがどうなるのか、教育委員会はノータッチになるのかなど、不安がある。情報が少ない保護者に対する勉強会等があれば良いと思う。親は悩みながら相談しながら子育てしている。相談できる場所があることは大切。発達障害の子どもを持つ保護者が、どこに相談したらいいのか分からないと言っていた。学校の先生も発達障害のことをもっと勉強して欲しいという声を聞く。噛み砕いた表現で計画にのせてほしい。
委員	子育ての経験から感じたことは、地域や行政も大事だが、一番大事なのは家庭ではないかと思う。家の中でたくさんコミュニケ

	<p>ーションがとれているのか。土日は家庭でスキンシップや会話をたくさんすべき。メールでは一方通行で、会話した気になっているが、それは違う。仕事でも同じだが、大事な内容は顔を見て話さないといけない。人とコミュニケーションをとれる能力を身に付けること、一人にしないことが重要である。人と一緒に交わることの喜びを知らせたい。</p>
委員	<p>私は、自営の仕事の都合で営業時間が長いので、延長保育なども利用させていただいた。でも、子どもに我慢を感じさせないように努力してきた。子どもの顔を見て、必ず子どもの良かったこと、楽しかったことを聞いてあげ、自分の良かったことを話すなどの対応をしてきた。どうしても子どもは大人の心を読みとろうとするので、悲観的にならず、明るく楽しくというのを意識して接してきた。地域の子供達に声かけをする中でコミュニケーションを取り、地域の中で子どもを育てることが大事。地域の中で高齢者を活かした子育て環境を作ってほしい。</p>
委員	<p>P. 16 の「6. 特別な援助が必要な子どもへの支援」ですが、これは私が現場で一番必要だと感じている。学校では、昔は 20 歳代の若い先生に当たると、生徒も保護者も喜んでいて、今では頼りなさが強調され、がっかりされてしまうことが多い。そういう若い先生から、モンスターペアレンツが怖いという相談を受けるが、それは必ずしもモンスターではないと言っている。先ほど、発達障害の話があったが、発達障害が認知されている子どもは特別支援学級に通うなど支援があるが、実際に私が現場で感じているのは、グレーゾーンの子どもの苦しさだ。その苦しさを聞いていると、一概には言えないが、親が発達障害をもたれている場合がある。その時は親も子育てに苦しんでいるケースが多いように感じる。P16 の理念の中に出てくる、1～5 の内容に一番困っているのはそういった親ではないかと思う。困った人はサービスを受けるが、本当に支援が必要な状況にある人は、向こうから来ることはあまり無いし、相談に来ることも少ない。自分から助けてと言えない人へ情報が伝わり、サポートできる観点を持てるとよい。</p>
委員	<p>子どもが幸せになるには親が幸せにならなければいけない。子どもは親の顔色を見る。親が話し合える場が必要。PTAでも、問題の無い人はよく残っているが、実際に来て欲しいと思う人は残ってくれない。見えない所を大事にすることが大切だと思う。</p> <p>見守り隊の後継者がなかなか見付からないので、次世代に引き</p>

	継いでいけるような仕組みが必要だと考える。
(3) その他	
事務局	スケジュールの説明
事務局	次回、第5回の開催は8月上旬を予定しているが、詳細が決まり次第お知らせする。内容は、部会での検討事項の報告など。